

「男らしさ」「女らしさ」

甲斐市立竜王北中学校三年 岡 玖実

「男子みたい」

髪の毛を短くしていると、そう言われることが結構あります。本人は深い意味なく言っていることだと思いますが、言われた側からすると、とてもモヤモヤする言葉です。

学校全体をみても、髪の毛を結んでいる女子が大半をしめています。わたしのよう、後ろの髪の毛を刈り上げていて、場合によっては、男子よりも髪が短い女子は、レアキャラです。わたしの後姿は、男子とあまり変わらないかもしれませぬ。でも、女子が髪の毛を短くすることは、そんなに何かを言われなければいけないことなのではないでしょうか。わたしは、ただ短いのが好きで、短いほうが似合っていると思うから、髪の毛を短くしています。「男子みたい」という性別に関することを持つてくるのは、おかしいと思います。性別のことを言うのは、わたしたちの根本的なところに、「男らしさ」「女らしさ」という概念があり、無意識に、こうあらなければならないと決めつけているからではないでしょうか。

わたしの学校では、来年度から新しい制服が追加されます。今までは、男子は学ラン、女子はセーラー服が基本でした。今度追加されるのは、男女ともブレザーで、女子もスカートだけはでなく、ズボンを選べるようになります。

わたしは今まで、「女子は必ずスカートを履かなければいけない」ということに、疑問を感じていました。わたしは、昔から髪の毛を短くしていて、どちらかというと、かわいいものよりもかっこいいもののほうが好きで、スカートよりもズボン派でした。中学生になると、制服は当たり前で、男子はこれ、女子はこれ、と決まっているのは、とても窮屈に思えました。「一人ひとりの個性を大切にすると」言われている時代に、男子は学ラン、女子はセーラー服という決まりは、もう古いと感じます。制服で好きなタイプを選べるようになったのは、とてもうれしいことです。わたしは、来年度高校生なので、中学校の新しい制服は着られません。でも、高校では、中学校よりも早く制服を選べるようになってるので、自分らしい、ズボンを履いていきたいと思っています。わたしは、これからは、男子もズボンだけではなく、スカートを選べるようになるといいなと考えています。周りの理解などが必要になってくると思うので、

今すぐには難しいかもしれませんが、社会的なイメージで、自分が好きなものや得意なものを堂々と表せない・できないということは、人権の侵害になるのではないのでしょうか。好きな恰好や好きな髪形で、ありのままの自分を尊重して過ごせる社会に、早くなっていければいいなと思います。

周りの理解を深めるためには、小さいころからの環境が大事だと思います。少し前に、サンリオのグッズを売っているお店に向かって、幼稚園生ぐらいの女の子が駆け出したことがありました。ほほえましい気持ちで見ていると、その後ろから、お兄ちゃんらしき子どもが、  
「今は男も女も関係ないからいいよね！」

と言いながら、女の子に続いてお店に走っていきました。それを聞いて、とても感動したのを覚えています。小さい子どもが、そんな風に考えていることをうれしく思いました。小さいうちから、男女平等の考えを教えられていれば、差別をする人も少なくなるのではないかなと思います。彼のような考えが、だんだん広まって行ってほしいです。

これからの時代は、SDGsにもあるように、男女平等やジェンダー平等などがいわれます。その社会を目指すためには、まず、これまでの常識を変えていくことから始めなければいけません。テレビに、男性が女性の格好をして出ていると、「気持ち悪い」「男の人だよね」と言う人も身近にいます。急に自分の中の常識を変えたり、自分以外の感覚を受け入れたりするのは、少し怖いかなと思います。かといって、差別になるような言葉は、絶対に言ってはいけません。少数派の好きを「好き」と言うことは、とても怖いことです。わたし自身、友だちに、「制服はズボンのほうがいい」と言ったときに、あまり理解されずに悲しくなったことがありました。共感はしなくてもいいです。ただ、「そういう人もいる」と受け入れることから始めていけばいいと思います。わたしは、「男だから」「女だから」という言葉は、もう使いません。人権は、性別関係なく、生まれたときから持っているものです。誰もが性別に縛られずに、好きなものを好きと言える生活ができるようになればいいなと思います。